北から南から

令和元年台風第15号で被災した鋸南町の住民が安心して暮らせる、災害に強いまちづくり

千葉県鋸南町 鋸南復興アクセラレーション 広報
清水 多佳子

令和元年９月９日未明、私の住む千葉県鋸南町は台風15号により甚大な被害を受けました。広範囲にわたる停電、交通障害などの被害が発生。特に大きかったのは、家屋の損壊でした。町内の家屋の７割近くが破損し、それにより室内に雨水が侵入、部屋にカビが発生する被害が多発しました。私の所属する災害支援団体「鋸南復興アクセラレーション」は、こういった被災家屋に対応すべく、災害から約３ケ月経過した令和元年12月９日に発足しました。地元住民４人で作った小さな団体です。災害から３年３か月が経過した今、たくさんのボランティアさんに活動いただいたおかげで、被災ニーズは落ち着き、町内のブルーシートは少なくなりました。現在は被災の経験を生かし、減災の普及啓発活動のためのイベントに取り組んでいます。災害に強いまちづくりとは何か。これまでの当団体が取り組んできた活動から考えていきます。

1 社会的弱者ほど生活再建が遅れる

当団体の活動のメインは、鋸南町の災害ボランティアセンターの運営支援でした。令和２年１月から今年３月まで、鋸南町の社会福祉協議会の一室を事務所としてお借りし、被災家屋で生活をしている住民からニーズを受け付け、現地調査をし、家屋に養生が必要であると判断した場合、技術系ボランティア団体にニーズを渡し、屋根や室内の対応をしてもらうという活動をしてきました。

被災家屋の現地調査でわかったのは、生活再建が遅れてしまう人の多くは、独居高齢者や障害をお持ちの方、経済的に困窮している世帯など、社会的弱者の方々でした。

2 「コミュニティ」づくりの大切さを実感

社会的弱者の方の支援をする一方で、私たちの団体は地区ごとに「足湯とお茶会」を開催しました。被災し、心が疲れてしまった方に「憩い」の場を提供し、ほっと一息ついていただくことが目的で、2020年６月から2021年12月まで12回実施。その中で気づいたことがありました。被災者の中には、他人に迷惑をかけたくない、我慢しなければ…と思ってしまう方もいるということ。

お茶会で「実は家で雨漏りがしているんだけど、大丈夫だから…」と話される高齢の女性がいました。ご自宅にうかがってみると雨漏りで天井にカビが発生してました。「足湯とお茶会」のような場の中でこそ、張りつめていた気持ちがゆるみ、本音が出るのかもしれません。他愛のない会話の場を作ることの大切さ、そして心が通い合う場づくりの重要さを感じました。

3 「自分事」として動ける人材育成

これまで当団体は地域の住民向けに災害ボランティア講座やコンサートを実施したり、学童向けに「アシスト瓦づくり」教室を開いています。子ども向けのイベントでは、子どもに夢中になってもらえるような

かんこうぼうさいスタンプラリーに参加した子どもたち

鋸南町社会福祉協議会内で開催したフルートのコンサート

足湯とお茶会の中で住民と話した

地区ごとに開催した足湯とお茶会の一場面

工作や体験を作ることを重視しています。

この夏は、親子で参加できるイベント「かんこうぼうさいスタンプラリー」を鋸南町観光協会と共催で行いました。親子連れ、減災に興味のある大学生など80人近くの方にご参加いただきました。道の駅や町営の温泉施設も、災害時には住民にとっての避難所になります。そういった町内の観光施設11か所をめぐりながら、減災知識を身に着けていただく企画。町の名所である大黒山や土木遺産に指定されている汐止橋をスポットにすることで、参加者から「ふだん行かない場所にも行けました。親子で楽しんで参加しました」という声をいただきました。

防災、減災イベントというと堅苦しいイメージを持たれがちですが、より多くの人にご参加いただくため、楽しみながら取り組めるイベントづくりを心がけています。

災害はいつどこで起きるかわかりません。だからこそ、災害が起きたとき、まず自分を守る行動をとるための知識を平時から身に付けておくことが大事です。当団体は、今後も減災の普及のため、活動を継続していきます。